

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400682		
法人名	株式会社 おはつ		
事業所名	グループホーム くらすところ御はつ(北)		
所在地	島根県出雲市下古志町751-6		
自己評価作成日	令和6年2月16日	評価結果市町村受理日	令和6年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和6年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家にいるような環境をつくり、今までできておられた役割を継続して頂けるよう支援している。行きたい所へ出掛けたり、ご本人の思いを大切にし、なるべくご希望に添えるようにしている。その方のペースに合わせて過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

街中の平坦な場所で敷地が広く畑もあり、フェンスで周りを囲んで安全に施設回りを散歩することができる恵まれた環境にある。コロナ禍のスタートだが、昨年利用者数名にコロナ感染者が出た時以外は面会や外出は自由にできるようになっている。ここを家と考え、必要以上に制限をしないことで離設に繋がったケースもあるが、家族との話し合いの機会を持つことで施設としての方針を貫いている。他のグループホームのように利用者全員が同じ動きをするような場面は見られず、やりたいことをやる、行きたい所へ行くなど、利用者の思いを第一として対応している。グループとして多くの事業を持ち、介護職員研修も行って修了者を雇用に繋げており、施設として目指す介護を共有しているように見受けられる。今後は地域の中の施設として、少しずつ関わりが増えるように検討していただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	くらすところの理念を理解し職員で共有し支援している	新人職員は自社の研修を修了しオリエンテーションを受けており、入社当日にも管理者から理念について話を聞くようになっている。指導者を付け、目標を設定して評価を行い、定期的な面談で意思確認し共有に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で、日々のご利用者様の生活の様子をお伝えしたり意見を頂いている	地元コミセンからイベントの案内は受けたが、交流はまだ行っていない。出かけることを基本としているので、ボランティアの受け入れはしていないが、高校生の介護の授業での見学は受け入れている。散歩時の挨拶や奉仕作業等は自治会に加入し、続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍だったため地域の方に知られていないのが現状の為今後知って頂けるように取り組んでいきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、日頃の利用者様のご様子を報告し家族様との意見交換をしている。意見を反映しサービスに活かしている	これまで書面開催だったが、11月より集合して開催している。夜開催を試みるも、あまり多くの参加にはなっていない。家族と民生委員、高齢者福祉課等の参加で定期に開催。利用者状況、行事、研修等の報告を行い意見交換に繋げている。	家族以外に地域の方の参加を増やすことで、様々な意見をサービス向上に繋げていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、日頃の利用者様のご様子を報告し家族様との意見交換をしている。意見を反映しサービスに活かしている	今年度は高齢者福祉課から運営推進会議への参加があり、専門的立場から助言を得ている。書類の提出時や不明な点を聞く際等に関わりがあり、毎月入退所の状況報告を続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束委員を開き話し合をし、職員に周知し身体拘束をしないように取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠は行わず、出入りは自由で拘束の無いケアを実践している。必要以上の拘束はしないこと、リスクはあることについては、入所時を含めヒヤリハットの報告時にも伝えている。委員会では振り返りを行い、虐待を含め研修を続けている。ヒヤリハット件数は多いが、隠さず報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回身体拘束委員会を開き話し合をし、職員に周知し虐待防止に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回の権利擁護の研修があり理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定(令和6年度法改正に伴い利用料の変更)予定。その際には事前にご家族へ文章で説明した後に改定を行う。また、来所時には直接説明。不明な点は電話でも対応予定。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族の来所時、電話の際にご家族の意見を聞き、運営に活かしている。利用者の意見や要望も普段の関わりの中で聞き、職員間で検討し可能な限り反映している。	運営推進会議の案内は家族全員に出しており、毎回数名の参加がある。面会も自由なため家族と関わる場面が多くあり、電話も含めてその都度様子を伝え意見を得ている。会議資料に行事等の写真を載せ、参加の無い家族にも送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各ユニット会議・全体での職員会議を行っている。その際や普段から提案を聞く機会を作り、運営に反映している。	新人職員には半年間定期的な面談を実施しているが、他の職員には必要と認めた時に声をかけたり、申し出があれば時間を作るようにしている。内容によっては施設長に上げ対応するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回、自己目標を設定し、自社独自の評価シートを活用している。自己評価・上長評価をし、給料へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に研修を受け足りない知識を身につけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で他事業所の方と交流する機会がありネットワークも広がっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に職員との情報共有を行い、ご利用者様の不安や困ったこと等傾聴し安心して暮らせるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との信頼関係を築けるように、困りごとを傾聴したり、何かあればお話しができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーがアセスメントを行い必要な支援ができるように取り組んでいる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自然にご利用者様のほうから声を掛けて下さり関係性を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご家族様とお話しをし傾聴し、一緒に支援できるように取り組んでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで生活を大切に、馴染みの人との関係や美容院に行けるように支援している	朝8時半から夜8時まで面会が自由になっており、家族や友人、知人と外出したり、外泊する方もいる。買い物や外食も制限を行わず、今までの関わりが続くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握しているが、トラブルが起きそうな時は職員が間に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたら関係は続いてはいない		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回のユニット会議でご利用様1人1人の思いや課題を把握し職員間で話しあい支援している	帰りたいという思いや外に出る行為には、どのような思いがあるのかを考えるようにしている。思いが伝えにくい方には、情報収集したうえで仮説を立ててサービスに繋げ、反応を見るようにしている。家族との外での様子は詳しく聞くなどして、情報収集するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限り今までの暮らしの継続ができるような支援に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の過ごし方、健康状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の意見を聞いたり、ご利用者様の課題をカンファレンスで話しあい介護計画を作成している	モニタリングは月1回、プランの見直しも半年に1回行うようにしている。遠方の家族以外は担当者会議へ参加があるため、一緒に計画に関する話し合いを行って了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議以外でも職員とは小さな気づきでも情報共有し介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なるべく柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用すること少ないため今後少しずつ活用していきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来られている。また受診が必要なご利用者様にはご家族様が付き添って行かれている	今までのかかりつけ医を継続することもできるが、協力医2名を確保しており、全員の方が変更して入所している。定期の往診や夜間緊急時、看取りの対応も可能になっている。今年度も1名の看取りが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあればすぐに看護師に相談、連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ケアマネージャー、看護師、管理者が窓口になり医療機関と情報収集、退院後の療養について情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族様の意向を早い段階から支援できるように取り組んでいく	入所時にも重度化に向けても話し合いの機会を持ち進めているが、本人や家族の思いを大切に考えている。今年度も1名の看取りを行っており、今後も取り組む意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災委員会が発信し、消防通報訓練、心肺蘇生を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会が発信し、避難訓練を行っている	平坦な住宅地にあり自然災害には遭いにくいいため、火災中心に定期的訓練を実施している。1回は昼間、もう1回は夜間想定で行い、その他にも心肺蘇生やAEDの研修も行っている。市の高齢者の避難場所の確認も行い、有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴はなるべく同姓介助行い、排泄はプライバシーを守り対応している	入浴時やトイレ介助の場面では、できるだけ同性介助するようにしている。声がけについては、家族が見られたときにどのように感じるかを考えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、ご本人に希望を聞いて決めて頂いたり、難しい方は決めやすいように工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切に、なるべく希望に添えるようしているが、できない時は他に好きなことをして過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で衣類を選んで頂き着て頂いている。また汚れたら更衣をし常にきれいな服で過ごして頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやおかずの盛り付け、配膳を利用者様と一緒にできるように支援している	昼食は調理専属の職員で対応。食べたいものを聞いて作るようにしており、買い物も2日に1回利用者とお出かしている。魚をさばく男性や台所に立つ女性もいる。職員と一緒に作ったり、テイクアウトを利用したり食事が楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量が少ない方は工夫をし捕食で補ったり、飲みやすいもの、好きな物を飲んで頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる利用者様は磨いて頂き、嚥下機能が低下しおられる利用者様は口腔内をロールブラシで磨かせて頂いている。磨き残しなどは介助して行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレに行かれない利用者様は排泄パターンを考えてトイレ誘導し汚染を防いでる	紙パンツにパットの使用者、布パンツで自立の方もいるが、個々に合わせた対応をとっている。年齢の若い利用者もおり、同性介助を拒まれはしないが配慮の必要性を感じている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤を使用せず排便がみられるように個々に飲み物や果物など工夫し、天気の良い日は散歩している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お好きな時間に入浴されたり、入浴剤がお好きな方には入浴剤を入れて入浴されている	家庭浴槽ではあるが、1つのユニットではシャワーキャリーの利用が可能で、重度の方にも対応ができるようになっている。週3回は入れるように予定をたてており、遅番対応で夕方遅くに入ることもできるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣に合わせて日中休まれたり、夜はお好きな時間に休まれている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の理解をし、個々に服薬の量が多い利用者様には服薬キャップを使用し確実に服薬して頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までされておられた役割の洗濯たたみや食器洗いなどされたり、お茶の時間にはお好きな飲み物を飲まれている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく行きたい場所に外出している。また季節感を大切に季節の変わり目にも外出し楽しまれている	家族との外出制限はないので出かける方は多い。敷地が広く畑仕事に出たり、周辺を散歩する機会もある。食材の買い出しにも2日に1回出かけている。昨年夏には近くの土手に夜花火見学に行っている。外出希望を聞いているが、行きたがらない方もできるだけ連れ出すようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持するだけで安心される利用者様もおられ持っていて頂いている。またご希望に応じて買い物へ行き、好きな物を買われている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる利用者様は電話をされているが、難しい利用者様はは面会時にお話されている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室は季節ごとに温度調整を行っている。また冬には和室にこたつを出し季節感をあじわって頂いている	玄関、事務所を挟んで北、南のユニットがある。廊下を挟んでキッチンと連なったリビングと和室に分かれており、和室には炬燵もあり好きな場所でくつろげるようになっている。外の景色もよく見え明るく、騒音もなく静か。両ユニットの行き来も多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自由にお好きな場所に行かれたり、仲の良い利用者様同士でお好きな場所でくつろいで頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れたものや、ご家族の写真など飾らせて頂き安心して過ごして頂けるよう工夫している	大きめのクローゼットがあり、大きい物の収納は可能になっている。テレビ、テーブル、イス、衣装ケースなど持ち込まれている。小さい仏壇にご主人の写真を置き、毎日お物販を備える方があり職員が手助けしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場はわかりづらい利用者様もおられ、都度聞かれたら案内している。勝手口には物が置いてあるため整理が必要		